

【 心ふれあい SA 吹田創立 30 周年記念誌 】



高齢社会を明るく楽しく

生き抜くための活動に向けて

設立 30 周年記念

実行委員長 佐藤宏一

SA 吹田は、1989 年(平成元年)より、吹田市出身のシルバーアドバイザー(SA)養成講座第 1 期修了生が地域福祉活動を開始したことに始まります。

2007 年大阪府の先導モデル支援事業で「心ふれあいネット」の活動を開始し、2008 年に「心ふれあい SA 吹田」と名称を改めました。

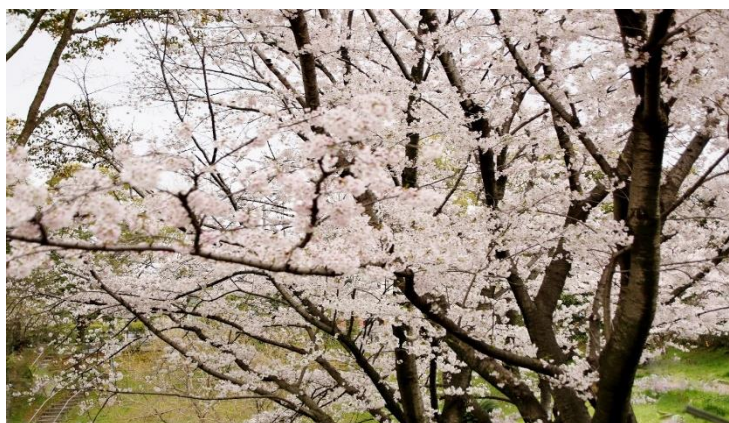
おもちゃ部会、歌体操部会、国際交流部会、ブロック部会、更に、福祉部会、まちづくり市民塾など会員は、130 名を超えました。

2009 年には、大阪府シルバーアドバイザー養成講座が廃止され、NPO 法人大阪府高齢者大学校が発足しました。

学習、仲間を作り、生きがいを見出し、社会貢献活動に参加して、学びの成果を上げてきています。

まさに、高齢化率が 20%を超えた超高齢社会の幕開けともいえるべき時に、私たちの活動がいかにあるべきかが問われています。

私たちの、それまで培ってきた経験と努力・協力によって、これからの高齢者の役割のさらなる展開のために、そして、後の世代の為に「心ふれあい SA 吹田創立 30 周年記念誌」を発刊した目的です。





次の10年への第一歩

心ふれあい SA 吹田 会長 今井正三郎

心ふれあい SA 吹田創立 30 周年にあたりご挨拶申し上げます。

2019 年 4 月 30 日に「平成」が終わり、5 月 1 日より新しい時代が始まります。1989 年 1 月 8 日から「平成」が、スタート致しました。「内平らかに外成る、地平らかに天成る」という文語から引用された「平成」という元号で、平和国家を目指してきた日本が、今後も、平和を目指すという決意の表れでした。1989 年(平成元年)は、ベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦が終わった年でした。世界は、平和になると期待されましたが、現実は逆でした。日本に於きましては「平成」は、戦争がなかったただ一つの時代でした。しかし、「平成」の 30 年間は、「激動の時代」でありました。日本では、バブル景気に沸いていました。物の価値が、その実力を越えて、上昇するに伴う加熱景気でしたが、バブル崩壊(1995 年～1997 年)に始まり、阪神淡路大震災(1995 年)、オウム真理教によるサリン事件(1995 年)、9・11 アメリカ同時多発テロ事件(2001 年)、リーマンショックによる金融危機(2008 年)、東日本大震災(2011 年)の津波と原発事故、風評被害などの事件・事故に加えて、グローバル化と IT 革命の中で社会システムや価値観が崩れていきました。

そのような状況にあった平成の 30 年間と同じくして、SA 吹田は、歩んできました。SA 吹田は、1989 年(平成元年)に会員数 26 名でスタート致しましたが、2001 年に活動休止に追い込まれました。2002 年に、会員数 87 名で第 8 代会長として丹羽史朗氏が選出され、おもちゃ作りの活動が再開されました。2003 年には SA 吹田通信が発行され、2006 年には第一回吹田歌体操交流会を開催し、2010 年には「SA 吹田」と「心ふれあい

ネット」の会員を統合し、「心ふれあい SA 吹田」として今日まで、吹田市のボランティ



ア団体として活発な活動を行ってきました。現在は会員数 212 名で、おもちゃ部会、歌体操部会、国際

交流部会、福祉部会の 4 部会でボランティアの市民活動を行っています。会員相互の交流を図るため、5 ブロックに分けての、ブロック部会活動を行っています。

1998年世界健康機関（WHO）は、健康の定義を改訂しました。身体、心理、社会の三つの健康が、そろるのが「健康」である。心と体と環境の健康に加えて、スピリチュアルに、健康であって初めて人間は、十全に健康といえると。人間が幸せと感じる「ハピネス」の共通項は、食べるということという基本的欲求の充足に加え、貢献、達成、分かち合える喜び、自己コントロールにあります。

SA吹田は“楽しもう、社会に役立てよう、第2の人生を”をキャッチフレーズに掲げ、会員皆さんが、健康でボランティア活動に、参加して頂くべき取り組みを進めてきました。ボランティアは、自分のために、自分を活かすことでもあります。次の10年への第一歩として、会員皆様の健康の維持及び吹田市民の方々のために、高齢化が進んでも、若々しく活動して頂くためのサポート、子どもの健全な育成を図るための活動に、取り組んでいきましょう。



【 ご 祝 辞 】



心ふれあいS A吹田創立 30 周年を祝して

吹田市長 後藤圭二

心ふれあいS A吹田が創立 30 周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。また、平素より子供の健全育成をはじめ、本市行政にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様におかれましては、おもちゃづくりや高齢者向けの歌体操、小学生と外国人の文化交流、福祉教育など様々なボランティア活動を通じて、地域に貢献されています。貴団体が、30年の長きにわたり歩みを重ねられ、発展されましたのも、歴代の役員をはじめとする会員の皆様のたゆまぬご尽力の賜物と存じ、深く敬意を表する次第でございます。人生 100 年時代の到来が現実のものとなりつつある今、高齢者の方がいつまでも健康で生きがいを持って、心豊かに暮らすことができる地域づくりがこれまで以上に重要です。そのような中、貴団体の活動は大変心強いものであり、今後、ますます活動の輪を広げられますことをご期待申し上げます。

皆様の中に、培われた経験と知識は、何物にも代えがたいものでございます。本市としましても、ボランティアやNPOの団体などの活動が活発に行われますよう今後ともお支えてまいりますので、本市市政に一層のご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆様のご健勝とご活躍、並びに、心ふれあいS A吹田がこの節目を契機に、さらに飛躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





創立 30 周年記念に寄せて

社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 会長 由佐満雄

心ふれあい SA 吹田が創立 30 周年をお迎えになりましたこと、心からお祝いとお喜びを申し上げます。

皆様におかれましては、30 年という長きにわたり、幼児から高齢者まで 1 人ひとりに寄り添って、実に多彩な社会貢献活動に取り組んでこられましたこと、その想いとご尽力に対しまして心より敬意を表します。当会では、「誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくり」をスローガンに、第 3 次地域福祉活動計画のもと、地域福祉活動に取り組むさまざまな団体、地域住民とともに、住民相互の支え合い活動を推進しております。

とりわけ、当会の小・中学校における福祉教育の授業では、児童生徒が「思いやり」

や「支え合い」の心を育めるようアイマスク体験や車いす体験など、皆様のご理解とご協力により、これまで積極的に取り組んでまいりました。平成 29 年度は小学校 30 校、中学校 8 校で、延べ 11,627 名の生徒を対象に実施できましたことは、ひとえに皆様方のお力添えの賜物だと心より感謝申し上げます。

当会は、これからも幅広い団体と連携、協働しながら、一層の地域福祉推進を図ってまいりたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後も、心ふれあい SA 吹田のさらなるご発展と、ご多幸をご祈念申し上げ、30 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。





心ふれあい SA 吹田 30 周年をお祝いして

吹田市立市民公益活動センター
指定管理者 NPO 法人市民ネットすいた
センター長 柳瀬真佐子

このたび、SA 吹田が創立 30 周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

SA 吹田の皆さまにおかれましては、シルバーアドバイザー憲章に基づき、吹田市で永きにわたって「仲間を作り仲間とともに、長年培ってきた知識や経験を生かし、地域で活動をするコーディネーター」の役割を担い実践されてきました。このことは、設立以来、歴代の役員をはじめ会員の皆さまのたゆまぬ努力やご尽力の賜物と、深く敬意を表します。



少子高齢化が進む中、長年慣れ親しんできた地域で暮らし続けるためには、互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の形成が必要です。行政の取り組みはもとより、市民自らが市民公益活動を通じて、地域社会の様々な課題に向き合い、活性化を目指すことが求められます。今後とも市民公益活動は、行政・企業のいずれもカバーできない領域を補填する機能として、様々な期待が寄せられると同時に、社会的な役割を担っていくこととなります。

SA 吹田は、このような時代の流れを先読みされ、地域社会への貢献活動を目的にシニア世代によって設立された市民公益活動団体です。各部会や関連グループの皆さまが、地域福祉や高齢者・子育て世代への支援、国際交流などに積極的に取り組まれる様子を拝見し、一人ひとりが生き生きと明るく活動されているのが印象的でした。また、常に新しいものを考え、新しいことにチャレンジされる姿勢は、私たち後輩も学ぶところが多く、たくさんの刺激をいただいております。それぞれの分野における専門性も高く、市民公益活動センターのイベントなどにも随分とご協力もいただきました。この場をお借りし、改めてお礼を申し上げます。



最後になりましたが、30 周年を迎えられる中、これからの時代の流れにも適応しながらも、貴団体がシニア世代が取り組む市民公益活動のモデルとして、更なるご発展と、会員の皆さまの益々のご活躍を心から念願し、ご挨拶とさせていただきます。



心ふれあい SA 吹田 30 周年に寄せて

大阪大学大学院人間科学研究科

教授 佐藤眞一

心ふれあい SA 吹田が創設 30 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

高齢期には、支えられる人と支える人がいます。支えられる人には、面倒を掛けて申し訳ないと思う人が少なくありません。その人たちを「心ふれあい」ながら支えていこうとする SA 吹田の皆様に対して、年少の私は、尊敬の念しかありません。いえ、支える、支えられる、の垣根を越えて、同じ時代を生きる人同士として共に生きていけるような地域社会を作るという気持ちが、「心ふれあい」の 5 文字には込められているのでしょう。

90 歳以上の高齢者が 200 万人を超え、百寿者といわれる 100 歳以上の高齢者が 7 万人にも達しようとしている超高齢社会日本では、地域に暮らす人々が年齢を超えて支え合う社会であることが、それぞれが、安心して暮らせる幸福な生活に導いてくれるものと思います。

心ふれあい SA 吹田に所属される方々は、シルバーアドバイザー養成講座を受講されて、他者を支える知識と技術を持った方々とお聞きしています。特に、職業から引退したサードエイジの人々にとって、他者への貢献と生きがいの獲得は、幸福の源になると老年学では考えられています。しかも、他者に貢献すること自体が生きがいと幸福の素となるようです。会員の皆様は、心ふれあい SA 吹田の活動を通して、すでに生きがいと幸福を実感されているのではないのでしょうか。そして、この先、もしも支えられる立場になったとしても、他者を支えてきた経験によって「支えられ上手」となり、支える人が笑顔になるような高邁な人格を得ることができるでしょう。

心ふれあい SA 吹田の今後、ますますのご発展と皆様のご健勝を祈念致します。





心ふれあいS A吹田の30周年記念のあいさつ

大阪府S A連絡協議会

理事長 新鞍清彦

この度は「心ふれあいS A吹田」の30周年記念に際し、お祝いの言葉を述べさせていただきます。今年の4月で就任3年目の新鞍です。微力ながら大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会(以下、大阪府S A連協と表現)の発展に勤める所存です。

大阪府のS A連協の平成31年度活動方針は『地区S Aの活性化への貢献活動』です。

大阪府S A連協は「地区S Aが元気になるように作られた組織」と理解します。そのためには、地区S Aが活性化する方策は、①地区S Aの情報を吸い上げること、②地区S Aが持っている情報を交換し合うことで、お互いの組織の相乗効果が期待されます。そのためには、遠方から理事会に参加さ

れる地区S Aの参加者に、有意義であったと感じていただける理事会を目指したい。



心ふれあいS A吹田の皆様へ

吹田S Aの活動①子どもの健全な育成事業と世代間交流のおもちゃ部会②高齢者や福祉を対象に活動されている歌体操部会③学童への福祉教育に参画支援する福祉部会④小学生が世界を見つめグローバルな人的交流を図る国際交流部会など、魅力ある活動が我々の見本です。吹田S Aの理事さんを通じて、府S A連協へ具体的な提案をお願いします。他の地区S Aも其の成功例を参考にして、具体化して魅力ある地区S Aを作りたく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

【 心ふれあい SA 吹田 30 周年に寄せて 】



30 周年を迎えて、
さらに心ふれあい SA 吹田に期待すること

第 8 代会長 丹羽史郎

30 周年おめでとうございます。平成 14 年に再発足したときは、人数も 70 名まで減少し、引き続いて発展できるのか心細くなったのを思い出しました。それが会員皆様方のご努力、ご協力があって 200 名を超える会員を擁する、SA 連協の中で最大規模の組織になったのですから、これ以上の喜びはありません。

30 年と言えば、社会人となって一人前として見られる年頃であります。一つ一つの行動にも自覚を持って、世の中の為になるよう意識的に物事を進めていく必要があります。そして、世の中から SA 吹田を再評価していただく事が重要になります。さすれば、この先 10 年も 20 年も組織として、引き続き存続していく事も可能になります。この事を強く意識して、SA として行動して頂きたく念願してやみません。



昔あそび授業
「凧作りの説明」



自作の凧を校庭で揚げました
「北山田小学校」



地域に密着した活動を！

第9代会長 武内信憲

心ふれあいSA吹田の設立 30 周年おめでとうございます。

毎月の会報「心ふれあいSA吹田通信」ありがとうございます。

シルバーアドバイザー養成講座の国際交流コースを平成 14 年に受講しました。修了を控えてクラスを地域ごとに分けて修了後の活動について説明会がありました。当時のSA吹田の丹羽会長が説明に来られ、吹田市国際交流協会からも説明に来られました。15年にSA吹田に入会しました。当時から歌体操グループが多く活発に活動していました。おもちゃづくりチームも各年度毎に活発に活動して、他地域とも応援しあって地域の行事に参加していました。留学生との交流会も活発に行っていました。修了後は、吹田市国際交流協会（SIFA）のボランティア登録をして日本語支援をするグループに入りました。17年からそのグループの「おしゃべり会」で今も続けて活動をし

ています。

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の役員として平成 17～18 年と 2 年間事務局を担当し毎月の理事会に出席しました。府SA連協の中でNPOを作ろうとの案が出まして勉強会を重ねて平成 18 年 4 月の理事会でNPO設立の提案が賛成多数で承認されました。SA連協のおもちゃづくり、おもしろ算数教室と国際交

流活動をシルバーアドバイザー・ネット大阪がNPO法人として申請して平成



18 年 9 月大阪府から認証されました。現在メンバーとして 13 年目を迎え活動を続けています。認定NPO法人大阪府高齢者大学校での事業部関係では企画を担当し貴重な体験をすることができました。

港区の関西国際交流団体協議会の依頼を受けて2003年（平成15年）の6月から11月からの年2回、5回～7回シリーズで「レツトークウイズUSJパフォーマーズ」としてUSJのパフォーマーに指導してもらいゲームをしながら英語に親しむための勉強会を2010年（平成22年）まで15回小学生高学年対象に実施しました。

また、2009年（平成21年）千里中央の公民館コラボで千里英語サロン（Senri English Salon=SES）をされていた豊中SA12期の宮本代表からのお誘いで入会をしました。今も継続して活動をしています。毎月4回教室を開い

て大阪大学等の世界各国からの留学生や在日の外国の方の英語での話を聞いて自由に質疑応答する会です。

シルバーアドバイザー養成講座を受けて多くの方と協力し合って今まで貴重な体験ができました。

国際交流15期は、今も年に2回集まって飲んで情報交換をしています。

SA吹田の会員の皆様が今後とも、地域に密着した活動をされ、引きついでいただける方を見つけて健康に留意され楽しく活動されることを願っています。





私の今 思い、期待すること

第10代会長 佐藤宏一

心ふれあい SA 吹田 30 周年おめでとうございます。

私は、SA 吹田で 2007 年「輪と和(コミュニケーションと思いやり)を高める組織」をめざし、心ふれあいネットの展開を図りました。① 歌体操懇談会 ② おもちゃ懇談会 ③ 国際交流懇談会 ④ ブロック長懇談会を推進しました。現在の「心ふれあい SA 吹田」の原点です。

そして、2016 年アクティブシニアがあふれる大阪事業で、ゆいぴあ(夢つながり未来館)に、吹田市の多くの皆さんと、健康長寿を目指すトレーナー養成講座を学習しました。長年積み重ねてきた経験を、次の世代に伝える機会を持つことで、世代継承の役割を遂行することが可能になります。何よりも、次に続く世代が、シニア層の社会貢献と、明るい生き生きとした姿を見いだしていきたいと思っています。

私は、過去 10 年間の活動を本にまとめました。次に紹介いたします。

「高齢者が動けば社会が変わる」

(NPO 法人 大阪府高齢者大学校の挑戦)

私は、2007 年 SA 吹田、2008 年大阪府 SA 連協

理事長として、ボランティア活動の実践を学び、その後、現在の認定 NPO 法人大阪府高齢者大学校に、従事してきました。

その歴史を記

録に残し、後世に引き繫いでいかなければという思いで、執筆に打ち込みました。

活動の範囲は、老人大学から大阪府高齢者大学校の立上げ、大阪のみならず他県や東日本被災者支援大学校の運営、海外(中国・ヨーロッパ等)にまで広げ、国際交流を継続するなど、多岐に渡る活動をまとめています。



◆本の紹介 2017年4月10日に発行

- ・第一部：NPO法人大阪府高齢者大学校のあゆみ；

佐藤宏一著

- ・第二部：多様な視点からみた高齢者の社会活動；

堀 薫夫/大阪教育大学教授、他著

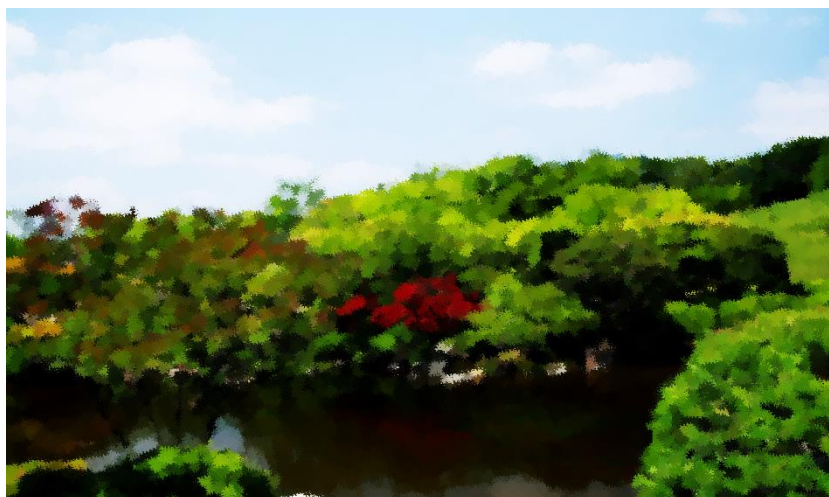
- ・第三部：超高齢社会へのNPO法人大阪府高齢者大学校の挑戦；柏木 宏/大阪市立大学名誉教授、佐藤宏一、他著



◆入手方法

発行所：ミネルバ書房。関西では、専門書の部類ですので紀伊国屋、ジュンク堂。

また、インターネット・アマゾン、ミネルバ書房でも入手は可能です。





SA 活動 30 周年の想い

第 11 代会長 小川忠夫

第 11 代会長を務め、退任した後も役員として多少の活動してきましたので、その間の出来事を振り返り想う事を記してみます。

シニア先導モデル事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

実際に活動に係ったのは、20 周年少し前から今日までの 10 年あまりです。自分自身が手掛けたことでの最大のトピックスは、2009 年に体験した大阪府の先導モデル事業での、100 万円の助成金を受けて歌体操とおもちゃ活動の基礎作りに貢献したことであります。

昔はよかったという話がいろいろあるが、ボランティアの部門でも、昔の大阪府は、気前も

よかったし、ボランティア活動の支援も熱かったです。この活動で歌体操で言えば創始者の寺島瀧子先生の指導を SA 吹田が直接受けることが出来ました、SA ハウスを設置したことにより、おもちゃ作りの新しい分野に挑戦することが出来ました。SA 吹田にとって大きな転換期であったと思います。



世代間交流おもちゃ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おもちゃ学校は設立後5年が過ぎました。その間100人の入学者を迎え、今でも80人がおもちゃの活動を熱心に行っています。SA吹田のおもちゃの活動は長い歴史を経て活動が充実してきました。それだけベテランの方が多く、おもちゃ学校の卒業生もすぐには馴染めず、当初は、中々、活動の場での存在感を示せず来ましたが、ここに至っては、おもちゃ学校卒業生を抜きにしてはSA吹田のおもちゃ活動を語れ

ないほど存在感を示しています。

一昨年の暮れに、NPO法人「SA子ども活動塾」を設立しおもちゃ学校の1期～5期までの卒業生が、5クラスのおもちゃ教室を開催し、毎月200人の小学生が1年間12回、吹田市夢つながり未来館に集合し、おもちゃ作りの授業を受けています。吹田市や保護者の評価も高く、6年目を迎えています。

歌体操市民塾とエコおもちゃ市民塾・・・・・・・・・・・・・・・・

会長時代にエコおもちゃ作り市民塾と歌体操介護予防市民塾を吹田市に申請して認定され、その後の活動に大きく貢献したことも嬉しい出来ごとであった。

歌体操部門では吹田市福祉協議会と連携して「歌体操ボランティア養成講座を」を毎年継続して、実施していることが、SA吹田にとって、若手会員の獲得と歌体操の活性化に大きく貢献している。そのことにより、大阪

府SA連協の歌体操フェスタ等のイベント参加の場面でSA吹田の存在感をゆるぎないものにしている。また高齢者施設への歌体操ボランティアが大幅に増加し、活性化している。側面から応援している者にとって大変うれしい事です。エコおもちゃはその後のおもちゃ学校やNPO SA子ども活動塾の設立につながり今日に至っています

常々思っている事 心ふれあいSA吹田の真の活動・・・・・・・・・・・・・・・・

SA吹田の活動と言えばおもちゃと歌体操が代表するように言われていますが、元会長として言えば、SA吹田の本筋の活動は「福祉部会の福祉教育」と「国際交流部会の外国人と小学生の交流活動」であると思います。他の地区SAには無い貴重な活動であります。これぞSA吹田の宝の活動であるといっても過言ではありません…おもちゃや歌体操は半分以上、いやほとんどが自分の楽しみと一致しています。

それは、それでいいのですが、福祉や国際はちがった意味で貴重な活動であると思います。この活動の活性化を大いに期待しています。



福祉教育、国際交流授業での 子どもの健全な育成



第 12 代会長 金馬弘昌

2011年～2012年の2年間、SA吹田の会長を務めさせて頂きました。

SA吹田の各部会、歌体操部会、おもちゃ部会、国際交流部会、福祉部会は活発な活動をしていました。特に福祉教育と国際交流授業が忙しい年度でもありました。福祉授業では中学校からの要請が多かったです。小、中学校での福祉授業、高齢者疑似体験、車いす、アイマスク体験と指導の回を重ねる度に生徒や児童が真剣に取り組む姿に驚きました。また、福祉イベントも数多くありました。

関西大学の「もし暴漢に襲われたら」の実演講座にSA吹田のメンバーも参加して、大学生に「いざ！」と言う時の身の守り方など教わりました。また、歌体操部会と合同で「災害に備えて」の講座と実演をしました。年度末には、小学校、中学校の福祉教育担当者、社会福祉協議会、SA吹田福祉担当者と3者による懇談会があり、それぞれの疑似体験を経験して、小、中学校の生徒や児童が高齢者などに優しくなったとの報告を受け、これからも“頑張るぞ”の意気込みでした。

3月11日AEDの実演講習会のあと東北大震災を知りました。吹田市に約100名の被災者(小学生、中学生含む)が避難してきました。

あるNPO法人の方と一緒に被災者の方たちへのボランティア活動が始まりました。

国際交流部会の活動は小学校で「小学生と外国人との交流授業」を実施しました。小学生に留学生が日本語でパワーポイントを使って自国の文化、風習などを紹介するという形でした。



平成23年度は16校、平成24年度12校でした。知らない異国の文化に小学生を喜々としており、私達も、遠い国の異文化に触れた貴重な体験の数々でした。

私としても、歌体操部会に身を置き、おもちゃ作りのイベントにささやかながらも協力をしました。微力ではありましたがそれぞれの部会に参加して楽しく有意義な2年間でした。

SA吹田の会員の皆様、役員の皆様ご指導、ご支援有難うございました。



真のボランティア活動を目指して

第13代会長 笹原義正

ボランティア団体の平均寿命は、約5年間程度と聞いたことがあります。特に当会はNPOでもない任意団体でありながら30年も継続できたことは奇跡的にすごいことです。改めてお祝い申し上げます。

さて、ボランティアは阪神淡路大震災に始まって、ナホトカ船の重油回収、東日本大震災など、日本の危機だと思い仕事そっちのけで現地に向かい活動していました。

山形生まれのわたしには、吹田市は第二の故郷で昭和54年から住んでいますが、退職した時、運よく出会ったのがボランティアSA養成講座でした。そこで、素敵なSA同期生に出会えました。高大一期の吹田SA同期生は、入会即役員にさせられ、今日まで役員を続けてSA吹田を支えておられます。本当に、利他性に富んだ人たちばかりで誇

りに思います。更に、SA吹田でのボランティア活動を通じて両隣しか知らなかった私が、今では、千人を超すまで友人・知人が増えました。SA吹田を通じて学んだボランティア活動は相手から喜ばれ、社会に貢献できている感覚があり、生き甲斐にもなっています。

ボランティアとは、利他性を重んじた社会貢献志願者です。自ら志願して実践するのですから、責任が伴う活動です。損得勘定や自己満足に走ったり、自己都合を優先し仲間や相手に迷惑をかけたりと、まだまだ、日本のボランティアは後進国だそうです。

私も、利他性と社会貢献のあるべき姿を模索し、責任ある言動を心がけ、少しでも、真のボランティア活動ができるように精進していきたいと思っています。



心ふれあひ SA 吹田の活動

SA 吹田の概要

設立：平成元年(1989)4月
会員数：212名(平成30年現在)
SA吹田は全体活動の他に次の5部会の活動があります。

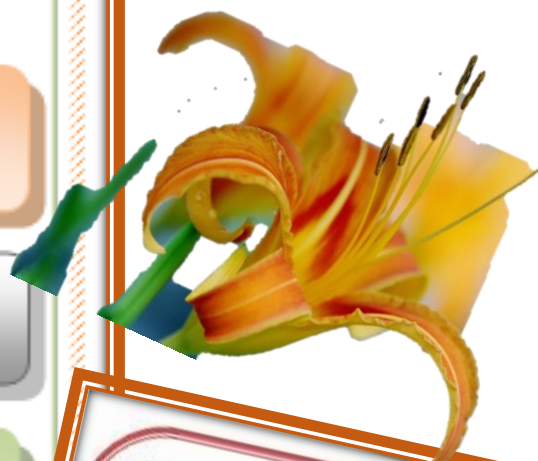
おもちゃ部会
手づくりおもちゃで子ども健全育成

歌体操部会
歌体操で高齢者自立支援

国際交流部会
外国人と小学生を学校授業で交流

福祉部会 施設での福祉活動。
社協との協働福祉活動も。

ブロック部会 SA 通信配布
会員の親睦と生き甲斐づくり



国際交流部会

小学生と外国人の交流授業




自国を紹介中

高齢者自立支援

歌体操部会

寝たきりに
させない
ならない
つぐらない




第15回 吹田ボランティア
イベントで熱演

ボランティアで
生き生きシニアライフ

おもちゃ部会

手づくりおもちゃで子どもの健全育成



小学校で風づくり→
凧揚げ授業



凧揚げ授業



バルンづくり



おもちゃ学校





ブロック交流会

会員の親睦と生き甲斐づくり



お花見



中央卸市場見学

福祉部会

社協との協働で小学生に
高齢者・障がい者疑似体験授業

会員への研修



学校での授業



ハーブソルト講座



歌体操部会の活動

歌体操の生い立ち

SA 吹田の歌体操は、旧大阪府老人大学・SA 講座の、福祉ボランティア専攻コースの修了生の先輩方が、中心になり「イン吹田歌体操クラブ」を結成し活動を始めたところからスタートしました。この方々が吹田の歌体操の基礎を作り、普及に努め、活動を定着させました。

創設期の皆さん橋本一江さん、小桐剛氏をはじめ、亀岡房子さん、唐崎キミ子さん、黒川一江さん、堀瑞孝子さん、三馬明子さん等々、懐かしい顔とお名前が思い出されます。このころの歌体操は活動が活発で、SA 吹田でも抜きん出た存在でありました。イン吹田の歌体操は地域で多くの活動を行い 2008 年にはこの活動が認

められ、大阪府知事から表彰されるという荣誉が与えられました。

2009 年歌体操介護予防市民塾が発足してだいぶ様相が変わってきました。新しい人が多く参加するようになって、高齢者介護施設へのボランティア活動も組織的になり、拡充してきました。

藤川さん・加藤さんが中心になり活動し、梅林さん、柏原さんが補佐し現在の体制がしっかり定着してきました。新しい人への対応は歌体操養成講座を設け、ボランティアの育成に努め現在に至っています。

歌体操部会の活動

SA 吹田の歌体操部会は大きく分けて 2 つの側面があります。以前から、公民館などでグループの活動として、同好者が集まり健康と楽しみのため、歌体操を行い、技能の研鑽に努め、活動の輪を広げてきました。長いものは 20 年以上も続いているグループもあります。

今一つの活動は大阪府 SA 連協の活動に積極的に参加することが、多くなりました。SA 連協歌体操フェスタ・ブロック別研修交流会・歌体操中央研修会等がありますが多くの部会員が参加すると同時に SA 吹田が指導的な役割も果たしています。

歌体操グループの活動

	代表者	連絡先	会場	練習日
北千里歌体操同好会	柏原律子	7509-2733	北千里公民館	第 2(土)午前・第 4(木)午後
藤白台歌体操同好会	小桐 剛	6832-4521	藤白台市民ホール	第 2・3 金曜日 10:00~
北山田歌体操同好会	小桐 剛	6832-4521	北山田公民館	第 1(木)午後・第 3(土)午前
西山田歌体操同好会	梅林泰子 柏原律子	6876-6245 7509-2733	西山田公民館	第 1・3 金曜日 13:30~
歌体操介護予防市民塾	加藤昌子	6385-6477	夢つながり未来館	第 1・3 火曜日 10:00~12:00
H&S グループ	加藤昌子	6385-6477	夢つながり未来館	第 2・4 火曜日 10:00~12:00
歌体操グループ こだま	加藤昌子	6385-6477	江坂大池公民館	第 1・3 土曜日 10:00~12:00
かようクラブ	平山節子	6387-2251	総合福祉会館	第 1・3 火曜日 13:00~
歌体操同好会	藤川安高	6380-1950	千二公民館	第 2 月曜日 13:30~
歌体操の集い	船田弘子	6877-5972	山二公民館	第 2・4 金曜日 13:30~15:30
高大同好会なでしこ	西村秀子	6385-6408	ちさと図書館	第 1・3 日曜日 13:30~
吹三長生会	三馬明子	6383-5104	吹二地区憩い間	第 1・3 金曜日 10:00~
歌体操吹一同好会	梅林泰子	6876-6245	吹一公民館分室	第 2 月曜日、第 4 土曜日 13:00~
さわやか歌体操	小桐 剛	6832-4521	南千里公民館	第 1・3 月曜日 10:00~

歌体操グループの活動状況

活動する仲間たち

歌体操介護予防市民塾を中心とした介護施設訪問活動

もともと歌体操はボランティア活動の手段として発展してきました。結果的に歌体操自体が楽しいものであり、健康寿命を延ばすために非常に効果があると認められ更に発展してきました。

我が国は世界に名だたる高齢社会であり高齢者比率は非常に高く、それが急激に進んできました。それと同じように認知症者も増加し、決して他人ごとではない実態が進んでいます。

歌体操介護予防市民塾が中心になって高齢者介護施設の訪問活動の歌体操ボランティアを実施しています。自身の健康と生甲斐を得るという循環型のボランティア活動であることから、最近この活動はますます活発になり、訪問施設も、ボランティア人数も増大しています。



介護施設ボランティア一覧表 (23 施設 ボランティア数 延べ 55 人)

活動場所	リーダー	メンバー	利用者	活動	活動場所	リーダー	メンバー	利用者	活動
ウエルハウス協和	井口とみ子	1	50	12 回	青葉丘デイケア	梅林泰子	2	30	12 回
松風園	福田英子	3	35	24 回	豊泉家桃山台	藤本美貴子	2	25	6 回
吹田老健	林田弘子	1	40	36 回	豊寿荘	藤本美貴子	1	25	12 回
ここから南千里	梅林泰子	1	15	12 回	グループホーム「里」	西村秀子	0	18	12 回
たんぼぼ	加藤昌子	2	25	12 回	グループホーム寿	埴和由紀	1	12	12 回
弘済院第 2 特養	加藤昌子	2	30	12 回	岸部ふるさとの家	福田英子	1	10	12 回
スローライフ千里	船田弘子	2	20	12 回	エイジフリー西山田	柏原律子	3	20	12 回
垂水デイサービス	加藤昌子	1	25	12 回	くらら桃山台	梅林泰子	1	15	12 回
南ヶ丘デイサービス	加藤昌子	1	15	12 回	くらら吹田	宮本典子	2	15	12 回
千里の丘デイサービス	船田弘子	0	25	12 回	ここち江坂	菅 人美	2	20	12 回
グループホームやすらぎ	陰 幸子	1	15	12 回	デイサービスリほん	小桐 剛	2	15	36 回
JA すみれ会	小桐 剛	0	15	12 回	利用者合計	515 人/月	年間	6,000 人以上	

歌体操介護予防市民塾の存在

現在の SA 吹田における歌体操介護予防市民塾の存在は大きく、活動の中心です。塾生は 50 数名となり、新しくできた H&S グループとの連携も密にしています。近隣の茨木、豊中、箕面・豊能等から入会者があり、歌体操研修の一大活動拠点となっています。ここで技術を高め新しい歌体操を生み出し一層レベルの高い歌体操の活動を継続しようとトライしています。

おもちゃ部会の活動

この10年、おもちゃ部会は大きく動きました。特に、後半においてその動きは顕著でした。それは、平成26年から始まった、世代間交流おもちゃ学校の活動にあります。子ども達に、おもちゃづくりを教え、子どもたちの情操教育に役立つことに興味を持つ人々が、世の中にはまだ沢山あります。その方たちに、おもちゃづくりを覚えて頂き、我々と一緒に子どもたちに教えてもらう。そのような目的で、教室を設立しました。

平成26年の第1期生は、予定の30名でスタートしました。毎月第2火曜日、午前10時頃、阪急山田駅の東側にある夢未来館4階の会場に、三々五々と人々が集まって来ます。4月から翌年3月まで、1年間の長い研修です。毎回座学が1時間、クラフト技能研修が1時間、休憩を挟んで午後は、カラクリやロボットなどの工作を1時間半、ミーティング30分で、16時頃までかかります。そして、1年の研修を終えて、卒業し、すぐに同期生の会が設立されます。そのような仕掛けで進んでいきます。



このようにして、既に1期生から5期生までが卒業し、おもちゃづくりの実践部隊として活躍しております。さらに、今年からは、おもちゃ学校の運営を、卒業生に任せるところまで成長してきています。なんとも、心強い存在ではありませんか！また、SA吹田の会員数が200名を超える大人数になりました。組織強化の一助となっております。

従来、おもちゃ部会を構成するグループは、SA吹田おもちゃづくり市民塾、エコおもちゃ市民塾、MUS、K2、SA18、エコおもちゃ工房とバルーンクラブの7グループでしたが、おもちゃ学校創設以来卒業生の同期会が誕生し、トイスクール吹田、おもちゃ箱未来、おもちゃ工房夢、おもちゃランドと増え、さらに、今年からは、5期生の同期会が発足します。また、卒業生の発意で設立されたおもちゃ研究会やロボット研究会なども加わり、合計14グループとなります。益々賑やかになります。この10年の動きです。



国際交流部会の活動

SA 国際交流部会は、2007 年(平成 19 年)に 17, 18, 19 期の有志によって発足しました。国際交流部会として、取り組む内容は「小学生と外国人による交流授業」で外国の方たちが、小学校の児童に、それぞれの自国の伝統文化、風習、教育制度などを紹介して、異文化に興味をもって貰うという事でした。

最初の頃は、外国の方も阪大留学生、吹田在住外国の方々でした。

先ず、2007 年度(平成 19 年)4 校からスタートしました。外国の方で日本語が話せない。また、少々話せるという方も多く、黒板に絵を描いたり、自国のカレンダーを児童に見せて手振り、身振りの説明でしたが、児童たちは手を叩いて喜んでいました。

ある国の方は、自国のお米を 7 種類位持って来て児童に見せていました。遊びも体育館に外国毎のブースを作り児童が、ぐるっと一回りして

おもちゃ作り、異国のじゃんけんを覚えたりしました。

2009 年度(平成 21 年)から、部会のスタッフの方の尽力で、大阪日本語教育センター(JASSO)の留学生が、授業の一環として参加してくれるようになり、パワーポイントの日本語で自国の紹介をする形が定着しスタッフの人数も増えてきました。

国際授業に参加する小学校も年毎に大きく増えて 2014 年度(平成 26 年)まで活発な活動でした。

年 度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
小学校数	4	9	11	13	16	12	13	13	1	4	6	7
参加外国人	21	40	43	54	51	33	33	39	3	13	19	24
参 加 国	5	13	18	23	20	17	18	17	3	9	10	14

上記の表の様に活発な活動も 2014 年度(平成 26 年)で残念ながら一旦休止状態になり、苦悩の日々が過ぎ、廃部を覚悟していました。2015 年度(平成 27 年)、ある小学校から、1 クラスだけど外国人 3 人来て下さいとの依頼を受け実施。これが再開のきっかけとなり、国際交流部会のスタッフの奮闘と、新しいメンバーが加わり、2016 年(平成 28 年)4 校、小学生と外国人との交流授業を「SA 国際ふれあい会」と協働で、2017 年度(平成 29 年)6 校、2018 年度(平成 30 年)7 校実施できました。「小学生と外国人との交流授業」の内容も充実し、小学校の教育内容も様変わりしてきている昨今ですが、小学校から次年度も“是非”という要望に応えられるよう、スタッフ一同力を合わせて次年度も引き続き国際交流授業を行っていきます。

福祉部会の活動

2010年(平成22年)に、SA吹田福祉部会として発足しました。

活動：吹田市社会福祉協議会からの依頼があると、社協のスタッフと一緒に小学校、中学校の福祉授業に参加してきました。年間、平均6~9校。30年度は、9校実施。

高齢者疑似体験、車いす体験、アイマスク体験と、各学校によって体験が違っていました。

小学校は、4, 5年生の児童が対象、中学校は1年生の生徒が対象と、これは現在も変わりはありません。どの体験も、必ずペアを組みます。体験する人、付き添う人。そして入れ替わって体験と付き添いを体験します。福祉部会のスタッフは、高齢者疑似体験では、児童、生徒の身体の腕、足、頭に用具を付けるのを手伝い、また、コースを誘導して回ります。怪我をしないように気配りが大変です。アイマスク体験では、アイマスクを付けて、白杖を持って障害物を避けながらコースの階段を降りて、校外を回り、また、階段を昇って帰ってきます。車いすは多目的室などで、段差や三角コーンのジグザグのコースを体験します。段差を越えるのが難しく、部会のスタッフが手伝う事が多々ありました。児童たちが真剣に取り組む姿に部会のスタッフも必死でした。中学生の生徒は、アイマスク体験をして“眼が見えないことが、こんなに怖いとは思わなかった”との感想もありました。体験が終わると“ハンディがある人を見かけたら出来るだけ前の方から声かけをしてね”と言うと“一寸は恥ずかしいけれど頑張ります”の答えがありました。2004年(平成16年)頃から、徐々に社会福祉協議会の体制も変わり、学校→地域→社協と言うように、地域とつなげる地域の福祉委員会が、参加、協力して視覚障害者、聴覚障害者の講話を直に聴く授業が始まりました。今後も、SA吹田福祉部会に高齢者疑似体験は、6~9校の依頼があるそうです。

研修会、講演会、体験授業などは、意欲的に取り組みました。

以下抜粋

- ・2014年(平成26年)10月, 11月 認知症の方への接し方2回講座で参加者にオレンジリング配布
- ・2015年(平成27年)1月 2回参加吹田市介護老人保健施設にて回想法を見学講座。佐上先生
- ・2015年(平成27年)2月 こぼと会グループホームたんぼぼにて認知症の方と交流。石山先生
- ・2015年(平成27年)9月 福祉部会の研修会 グループワーク 菅沼先生、石山先生
- ・2016年(平成28年)9月 認知症の基礎知識講座 角谷先生
- ・2016年(平成28年)11月 認知症のかたへの理解と効果的な関わり方とゲーム。菅沼先生
- ・2016年(平成28年)11月 減塩をしましょう。ハーブソルト作り。山口先生

ブロック部会の活動

SA 吹田通信の個別配布等、広報部とタイアップし、各ブロックに配布担当者の確保・協力の強化を図っています。会員相互のコミュニケーションに努め、会員に即した SA 吹田合同行事等への参加活動を進めています。

SA 吹田通信の配布は、毎月最終金曜日、亥子谷コミュニティセンターに於いて広報部による編集・印刷後、各ブロック長による仕分け、配布準備を行い、各ブロックに配布担当者を定めて個別配布を行って頂いています。

平成 30 年度は毎月発刊し、通算 190 号まで発刊・配布できました。

ブロック編成

第 1 ブロック：吹田市の北部中央環状線

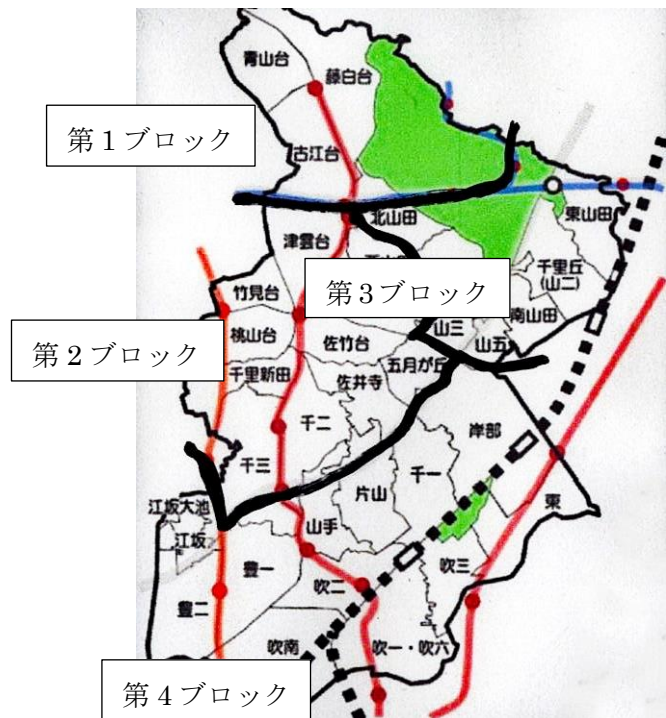
以北で、青山台・古江台・藤白台・山田北・上山田で千里ニュータウンに属する地区。

第 2 ブロック：津雲台・竹見台・桃山台・佐竹台・高野台と名神以北の五月が丘・佐井寺・千里山。

第 3 ブロック：中央環状線以南の山田東・南・西・市場・長野東・西・千里丘上・中・樫切山・新芦屋上・青葉丘北。

第 4 ブロック：名神を境に南側の吹田市旧市街地と江坂地区。

第 5 ブロック：吹田市以外の会員。



今後の取り組み

各ブロックに於いて、いろいろな分野で活動されている会員の横の連携を図り、各ブロック内の SA 吹田全体の支援体制を構築します。SA 吹田全体のイベントが多数の会員により行われ、各ブロックでの啓蒙、連携によってお互いの親睦のもとに、楽しい、心ふれあい SA 吹田にしていきます。

心あれあいのSA吹田のイベント



2011/11 第1回大阪マラソン



2011/10 千里高校世代間交流



2011/10 千里高校世代間交流



2012/03 寒梅会



2012/03 寒梅会



2012/03 寒梅会



2013/10 大阪マラソン



2014/03 寒梅会



2014/06 親睦会



2014/10 大阪マラソン



2015/05 新会員歓迎会&親睦会



2015/02 灘五郷見学会



2010/05 子どもカーニバル



2016/02 中央卸売市場見学



2017/05 新会員歓迎&親睦会



2016/12 中央卸市場



2016/11 ミスタードーナツ見学 ドーナツ作り



2017/04 伏見酒造見学とお花見



2017/04 京都にて



2017/04 円山公園



2017/04 懇親会



2017/11 大阪マラソン



2018/04 ワンコインパーティー



2018/04 総会



2018/04 総会



2017/11 大阪マラソン



2017/12 大阪中央卸市場

心ふれあいSA吹田役員推移表(2009年～2013年)

	2009年 21年度	2010年 22年度	2011年 23年度	2012年 24年度	2013年 25年度
会 長	小川 忠夫	小川 忠夫	金馬 弘昌	金馬 弘昌	笹原 義正
副会長	松川 裕	金馬 弘昌	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生
	村松 章良	沖村 史生	藤川 安高	藤川 安高	藤川 安高
	金場 弘昌	藤川 安高	田原美佐穂	田原美佐穂	田原美佐穂
		田原美佐穂	村上 正	笹原 義正	須崎 俊英
総務部 部長	田原美佐穂	金馬 弘昌	須崎 俊英	須崎 俊英	吉川 誠
副部長	土岐 剛三	笹原 義正	中西佐和子	中西佐和子	中西佐和子
	藤本美貴子	須崎 俊英	吉川 誠	吉川 誠	松森 一夫
		中西佐和子	松森 一夫	松森 一夫	前田 恭厚
会 計	内田 格子	内田 格子	内田 格子	内田 格子	内田 格子
広報部 部長	金場 弘昌	田原美佐穂	田原美佐穂	田原美佐穂	田原美佐穂
副部長	藤川 安高	藤川 安高	藤川 安高	藤川 安高	藤川 安高
	熊田 真也	熊田 真也	熊田 真也	熊田 真也	熊田 真也
	森 孝二	川端 敏郎	川端 敏郎	川端 敏郎	川端 敏郎
	村松 章良	笹原 義正	俣野 正雄	松森 一夫	須崎 俊英
					小川 忠夫
情報活動部 部長		土岐 剛三	村上 正		
副部長		加藤 昌子	加藤 昌子		
おもちゃ部会部会長	八木 秀雄	八木 秀雄	笹原 義正	笹原 義正	丹羽 史朗
副部会長	久賀 俊秀	熊田 真也	平野 喜美	平野 喜美	平野 喜美
	熊田 真也	平野 喜美	安田 勝廣	安田 勝廣	安田 勝廣
					松森 一夫
歌体操部 部会長	藤川 安高	加藤 昌子	加藤 昌子	西村 秀子	加藤 昌子
副部会長	加藤 昌子	西村 秀子	西村 秀子	中西佐和子	西村 秀子
	井口とみ子	梅林 泰子			中西佐和子
国際交流部会部会長	田尻駿一郎	田尻駿一郎	田尻駿一郎	田尻駿一郎	田原美佐穂
副部会長	一井 謙三	黒川 怜子	田原美佐穂	田原美佐穂	金馬 弘昌
福祉部会部会長	三好 桂子	三好 桂子	三好 桂子	見並 泰男	金馬 弘昌
副部会長	阿部 まり	見並 泰男	見並 泰男	三好 桂子	沖村 史生
		梅林 泰子	内田 格子		井上 茂
ブロック部会部会長		沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生
第1ブロック長	村上 正	吉川 誠	吉川 誠	吉川 誠	黒川 怜子
第2ブロック長	熊田 真也	竹田マユミ	竹田マユミ	熊田 真也	松森 一夫
第3ブロック長	沖村 史生	井上 茂	井上 茂	井上 茂	井上 茂
第4ブロック長	見並 泰男	林田 弘子	林田 弘子	林田 弘子	林田 弘子
会計監査	奥谷 英夫	松川 裕	八木 秀雄	八木 秀雄	八木 秀雄
	佐藤 宏一	村松 章良	村松 章良	村上 正	村上 正
顧 問	丹羽 史朗	丹羽 史朗	丹羽 史朗	丹羽 史朗	
			小川 忠夫	小川 忠夫	

心ふれあいSA吹田役員推移表(2014年～2018年)

	2014年 26年度	2015年 27年度	2016年 28年度	2017年 29年度	2018年 30年度
会 長	笹原 義正	笹原 義正	笹原 義正	今井正三郎	今井正三郎
副会長	田原美佐穂	田原美佐穂	田原美佐穂	藤川 安高	藤川 安高
	藤川 安高	藤川 安高	藤川 安高	沖村史生	沖村 史生
	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生	田原美佐穂	神保 隆之
	吉川 誠	吉川 誠	吉川 誠	前田 恭厚	
	松森 一夫	松森 一夫	今井正三郎		
総務部 部長	吉川 誠	吉川 誠	吉川 誠	藤川 安高	藤川 安高
副部長	中西佐和子	中西佐和子	中西佐和子	中西佐和子	中西佐和子
	松森 一夫	松森 一夫	前田 恭厚	前田 恭厚	
	前田 恭厚	前田 恭厚	今井正三郎	内田 格子	
		今井正三郎	内田 格子		
会 計	内田 格子	内田 格子	林田 弘子	林田 弘子	林田 弘子
広報部 部長	小川 忠夫	小川 忠夫	小川 忠夫	小川 忠夫	笹原 義正
副部長	藤川 安高	藤川 安高	藤川 安高	熊田 真也	藤川 安高
	熊田 真也	熊田 真也	熊田 真也		
	西尾 訓一	西尾 訓一			
おもちゃ部会部会長	丹羽 史朗	丹羽 史朗	丹羽 史朗	丹羽 史朗	丹羽 史朗
副部会長	安田 勝廣	安田 勝廣	小北 月子	小北 月子	小北 月子
	松森 一夫	松森 一夫	前田 恭厚	前田 恭厚	小川 忠夫
			今井正三郎	小川 忠夫	松森 一夫
				松森 一夫	鬼頭 兼義
歌体操部 部会長	加藤 昌子	加藤 昌子	加藤 昌子	加藤 昌子	加藤 昌子
副部会長	西村 秀子	西村 秀子	中西佐和子	中西佐和子	梅林 泰子
	中西佐和子	中西佐和子		梅林 泰子	柏原 律子
国際交流部会部会長	田原美佐穂	田原美佐穂	田原美佐穂	田原美佐穂	内田 格子
副部会長	金馬 弘昌	金馬 弘昌	金馬 弘昌	奥谷 英夫	田原美佐穂
		奥谷 英夫	奥谷 英夫	北山 佳計	
福祉部会部会長	金馬 弘昌	金馬 弘昌	金馬 弘昌	沖村 史生	沖村 史生
副部会長	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生	井上 茂	井上 茂
	井上 茂	田原美佐穂	田原美佐穂	神保 隆之	神保 隆之
		井上 茂	井上 茂		
			神保 隆之		
ブロック部会部会長	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生	沖村 史生
第1ブロック長	吉川 誠	吉川 誠	吉川 誠	笹原 義正	笹原 義正
第2ブロック長	松森 一夫	松森 一夫	今井正三郎	今井正三郎	今井正三郎
第3ブロック長	井上 茂	井上 茂	井上 茂	井上 茂	井上 茂
第4ブロック長	林田 弘子	林田 弘子	林田 弘子	神保 隆之	神保 隆之
				林田 弘子	林田 弘子
会計監査	八木 秀雄	松川 裕	松川 裕	松川 裕	吉川 誠
	須崎 俊英	須崎 俊英	松森 一夫	吉川 誠	前田 恭厚
顧 問				笹原 義正	

心ふれあい SA 吹田のあゆみ

- 1989年（平成元年）度 会員数：26名 初代会長に射庭義治氏が就任
- ・吹田出身のSA第1期修了生（26名）が、養成講座修了後、地域福祉の活動を開始
- 1990年（平成2年）度 第2代会長池田明義氏就任
- ・大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会（以下、SA連協という）が発足、SA吹田も参加
 - ・池田明義氏 SA連協の初代会長に就任
- 1991年（平成3年）～2000年（平成12年）
- ・この間正式記録無く歴代会長の氏名のみ記載
 - ・第3代会長 前田 秋
 - ・第4代会長 菊池 恭子
 - ・第5代会長 三宅 博
 - ・第6代会長 木田 隆三
 - ・第7代会長 入江 道三
- 2001年（平成13年）度
- ・SA吹田の活動が停滞、役員のみ手も減り、5月の総会で活動休止を決議
 - ・秋以降、SA連協の幹部から呼びかけがありSA吹田を再開する動きが始まる
- 2002年（平成14年）度 会員数 87名
- ・再建総会を6月に開催。第8代会長 丹羽史朗氏を選任して再開
 - ・「SA吹田おもちゃづくり 市民塾」が発足、おもちゃ作りの活動を開始
 - ・小学校でのおもちゃ作り開始（北山田小学校）
- 2003年（平成15年）度 会員数：77名
- ・府立千里高校との第1回「高齢者との交流会」を開催
 - ・機関紙「SA吹田通信」創刊号を発行
 - ・ブロック活動の機動化、活性化を目的にブロックを集約。（10ブロック→4ブロック）
- 2004年（平成16年）度 会員数：90名
- ・公園遊具の安全確認のお手伝いをする「公園を見守ろう会」の活動を開始
- 2005年（平成17年）度 会員数不明 第9代会長 竹内信熹氏就任
- ・「歌体操懇談会」が発足
 - ・千里南公園で開催している“よっといで祭”に「手づくりおもちゃ」で初参加
- 2006年（平成18年）度 会員数：124名
- ・第1回「吹田歌体操交流会」開催
- 2007年（平成19年）度 会員数：142名 第10代会長 佐藤宏一氏就任
- ・おもちゃ懇談会、国際交流懇談会、ブロック懇談会を新設（歌体操懇談会と合わせて4懇談会体制になる。）
 - ・大阪府の先導モデル支援事業で、SA吹田が認可を受け”心ふれあいネット”の名称で活動を開始
 - ・SAハウス開設。（SA吹田の活動拠点。）
 - ・SA吹田のホームページを開設
 - ・第1回「SA吹田歌体操教室」を開催
 - ・「イン吹田・いきいき歌体操」グループの社会福祉活動に対し、大阪府知事から表彰を受ける

- 2008年（平成20年）度 会員数）：127名。 第11代会長 小川忠夫氏就任
- ・懇談会を部会に改組、専門活動の強化を図る
（おもちゃ部会、歌体操部会、国際交流部会、ブロック部会の4部会体制になる。）
 - ・佐藤宏一氏、SA連協の理事長に就任
 - ・吹田まちづくり市民塾で「エコおもちゃ作り市民塾」が認定される
- 2009年（平成21年）度 SA吹田会員数：130名、心ふれあいネット会員数：25名
- ・総会に合わせ、日ごろの活動を広く一般市民に紹介するSA吹田サロンを開催
 - ・NPO法人「大阪府高齢者大学」開校
 - ・福祉部会を新設
 - ・福祉ボランティア派遣事業を開始
 - ・歌体操介護予防ボランティア市民塾が発足
- 2010年（平成22年）度 会員数：145名
- ・「SA吹田」・「心ふれあいネット」を統合して、「心ふれあいSA吹田」と改称
 - ・一般市民の入会受け入れ開始
 - ・創立20周年記念式典開催。（20周年記念誌発行）
 - ・大阪府高齢者大学校第1期修了生入会
 - ・吹田市ボランティア連絡会に入会
- 2011年（平成23年）度 会員数：146名 第12代会長 金馬弘昌氏就任
- ・吹田市立博物館、夏季展示におもちゃ部会が初参加
 - ・「吹田ボランティアフェスティバル」に初参加
 - ・第1回「夏休み・おもちゃカーニバル」開催
 - ・SA吹田通信100号達成
 - ・第1回「大阪マラソン」給水ボランティアに参加
 - ・第1回社会見学会 「朝日新聞大阪本社」見学
 - ・東日本大震災復興支援すいた市民会議に参加
- 2012年（平成24年）度 会員数：141名
- ・佐藤宏一氏 NPO法人大阪府高齢者大学校 理事長に就任
 - ・NPO法人「大阪府北部コミュニティカレッジ（ONCC）」開校
 - ・「内本町コミセンまつり」に初参加
 - ・第1回観梅会を実施。（万博公園）
 - ・東日本大震災復興チャリティーに参加
- 2013年（平成25年）度 会員数：126名 第13代会長 笹原義正氏就任
- ・総会時25周年記念式典を開催（SA吹田通信25周年記念増刊号発行）
 - ・「三役会」を設置
 - ・イオン・イエローシート・キャンペーン取り組み開始。（イオン南千里店）
 - ・「歌体操ボランティア養成講座」開始
 - ・吹田市「みんなの健康展」におもちゃ部会が初参加
 - ・「世代間交流おもちゃ学校」開校。受講生30名
 - ・ラコルタで開催された「かえっこバザール」におもちゃ部会が初参加
 - ・ボランティア養成講座2期0B 歌体操新グループ「ハナミズキ」誕生

- 2014年（平成26年）度 会員数：173名
- ・ 笹原義正氏 SA 連協理事長に就任
 - ・ 第一回新会員歓迎&懇親会開催（6月万博 BBQ にて）
 - ・ 世代間交流おもちゃ学校開校（受講生 30名）
 - ・ 第一回パークゴルフ開始（会員懇親会）
- 2015年（平成27年）度 会員数：198名
- ・ 吹田市南地区、内本町コミュニティセンターにて活動開始
 - ・ おもちゃ学校第1期OB、「トイスクール吹田」設立
 - ・ SA吹田通信150号発行
 - ・ 大阪中央卸市場第一回社会見学
 - ・ ボランティア養成講座4期OB 歌体操新グループ「スイトピー」誕生
- 2016年（平成28年）度 会員数：210名
- ・ おもちゃ学校第2期OB、「おもちゃ箱・未来」設立
 - ・ 会員の演芸大会としてフェスタ2017初回開催
- 2017年（平成29年）度 会員数：208名 第14代会長 今井正三郎氏就任
- ・ 歌体操グループ「ハナミツキ」と「スイトピー」が合併して「H&S」としてグループを立ち上げる
- 2018年（平成30年）度 会員数：212名
- ・ 大阪地震 台風21号での活動中止自粛ムードあり
 - ・ 創立30周年記念行事準備・記念誌制作開始・発行
- 2019年（平成31年）心ふれあいSA吹田創立30周年記念式典を挙げる

